感性を磨く場はどこにでもあります！

筆者が小学校3年生を担任したとき、あきら君（仮名）は、幼稚園からの乱暴な子どもということで、保護者や他の先生からもよく話題にのぼっていました。

授業中に突然立って、3つも4つも席の離れた子どもを叩いたり、集会でも他の学級の子にちょっかいを出したりするなど、勝手に動き他の子どもたちに迷惑をかけることがしばしばでした。だから、私も乱暴で友だちのことを考えない自分勝手な子どもという思い込みがありました。しかし、その思い込みを反省する出来事がありました。

明日が、歓迎遠足という日。あきら君が「先生、靴買ってもらった。ほら、ひも靴だよ。」と自慢げに話しかけてきました。

放課後、「先生」と悲しそうな顔であきら君が教室にやってきました。手にはひもがほどけた真新しい靴を持っています。「どぎゃんしたと？」と聞いても靴を見せるだけです。「靴ひも結べないの？」「うん」と小さな声で返事をします。「初めてひも靴を買ってもらい大きくなったような気分でとてもうれしかった。朝からお母さんに結んでもらって、そのまま家を飛び出してきた。」とのことです。

手を取って一緒に結んだり、彼も一人で何度も、何度も練習を繰り返し、1時間ほどで上手に結べるようになり、「ありがとう」とうれしそうに帰っていきました。

遠足当日です。学校を出発し、しばらくすると、あきら君は突然走り出して、100mくらい先で座り込みます。自分の列が来ると歩き出し、しばらくするとまた走り出し座り込みます。何度も同じことを繰り返すので、注意をしようとすると、「先生、あきら君は、靴ひもが解けたから先に行って結ぼうと思って走っているみたい。」と一緒に並んで歩いていたサキさん（仮名）たちが話しかけてきました。そして、「あきら君が、突然、叩くのは、授業中に消しゴムを投げたり、隣の人に話しかけたりする人たちばかり。友だちからいやなことをされたらすぐ助けてくれる、あきら君は本当はとっても優しいんだよ。」とあきら君のいいところを教えてくれました。

私は、話を聞きながら、「あきら君が遠くまで走ってひもを結ぶのは、クラスのみんなに置いて行かれたくない、心配かけたくないという気持ちの表れなんだ。自分が大切なように友達もとても大切にしているんだなぁ。」ととてもうれしくなりました。

そして人から聞いたことを鵜呑みにしたり、表面のことだけで決めつけたりしている自分が恥ずかしくなりました。

弁当を食べながら、あきら君に「友だちを大切にしてくれてありがとう。友だちも君のよさをわかっているよ。ひもが解けたら、その場で座って結ぼう。みんな待ってくれるよ。」と伝えるととてもうれしそうな顔で強く結ぶ練習を始めました。

「気づき・考え・行動する」ことの大事さを子どもたちに教えられた1日でした。

また、サキさんたちもあきら君の優しさに気づき、あきら君の良い所をいっぱい見つけることが出来ており、すばらしい感性を持っていたように思います。

人権感覚を磨く場や機会はどこにでもあります。

日常の何気ないことにも人権という視点で目を向けることで、自分の視野も広まり、感性も高まっていくことでしょう。

益城町教育委員会

ふるさとの地名漫歩

歴史の変遷と地名 323

矢嶋姉妹の周辺⑧

一領一匹は肥後藩の武士の身分制度では軽輩とされ金納郷士とされたが、実際は豪農で藩の末端行政を担い農村の実情を把握理解する、物心共に地域の指導者層でした。

第三に、この義兄弟が幕末の大思想家横井小楠を師と仰ぐ小楠塾の第一期塾生であり、小楠を中心として発展した実学党の中核であることです。小楠塾の経済は、沼山津の弥富家をはじめ矢嶋義兄弟が支えていたとされます。

このような家庭環境の中で、

★三女順子は、大江女学校（現フェイス学院高）設立。校長校母として今も仰がれています。

★四女久子は、徳富猪一郎（蘇峰）・健次郎（蘆花）の母。

★五女つせ子は、長男時雄（同志社社長、衆議院議員等歴任）長女みや子（海老名弾正妻）。

★六女楫子は、女学校教師、日本キリスト教婦人矯風会会長。―など教育家、宗教家として多彩な社会教育者が生まれました。

このように夫の活動を支え家庭を守り子女を育て、かつ自分も社会で目覚ましく活躍した人材を育てた母「鶴子」とはどのような人だったのか、その人柄の大要を知るために、はじめに鶴子の墓碑銘を原文で紹介します。

「矢嶋忠左衛門の配三村氏碑陰の記（在杉堂矢嶋家墓地）」

【此棺は益城郡の御惣庄屋矢嶋忠左衛門の配三村氏を納めしものなり、三村氏名は鶴、和兵衛某の女、寛政10年3月朔日に生まれ文政2年矢嶋氏に帰し、嘉永6年5月21日にて終わりぬ。此人貞正の生まれにして、義理に明らかに禍福害にうつされず、また能くなさけ深く人の憐を以て心とせり。家に在りて能く祖父母に仕え、（以下次号に続く）

益城町文化財を訪ねる会
会長　松野國策

杉堂城ヶ峰にある矢嶋鶴子の墓